

## 脳梗塞の息子（六）台湾旅行など

中村アキヤ

11月11日

初台の菅原先生から十二月からのリハビリ計画の変更が言い渡された。これまで週二回のリハビリのうちST以外のPT，OTは週一回となる。ワンステップあがったというところか？

11月20日

リハビリ友の会が参宮橋駅前の区民センターであった。哲也も挨拶させられ、カラオケにも参加した。

11月25日

初台から帰った哲也はテニスボールを十個ほど物置から出して、右手に無理に掴ませ左手を添えて籠の上にボールを動かし、ポトンと落とす作業を始めた。時間がかかるが全部籠に落とした。翌日から毎日作業を続けている。作業時間が段々短縮してきた。

12月2日

大雨の中赤羽まで行った。哲也は左手で傘を持ち、杖ナシで十分間の歩行を往復ともこなした。素晴らしいことだ。

12月7日

哲也は風呂で右手を動かしている時、右手になにか感じたと言う。人指し指と中指の付け根の辺りを指して何か言うのだが詳細はわからない。右手が感じをとり戻せば来年中にギターを弾くのも夢ではないか？ 嬉しくて涙がこぼれた。が、その後、哲也の右手は期待を裏切っている。

12月14日

初台リハビリ友の会のクリスマス食事会がオペラシテイのレストラン「マエストロ」であり、今年も親子で出席した。何人かの知己も増え、参加するのに緊張感は無かった。

同じテーブルに石原院長と友の会の篠原副会長に同席いただき、なごやかな会だった。

河口湖でお世話になった大西先生、林会長代行ともお会いできた。参加者が

来年の抱負のカードを書き、哲也は「ギターが弾きたい」と書いた。哲也が指名されどなたかの長いメッセージを読まされたが、臆せずに読み上げた。発音が不完全で内容は半分くらいしか伝わらなかったと思うが、とにかくやってのけ皆さんに拍手してもらった。

12月17日

哲也が高校時代の親友の大隅さんから「遊びにいつでもいいか」とのメールを貰い、嬉しそうに「明日ならいつでもいいよ」と返信した。すぐに寒いところを出かけ、明日のために近所の酒屋で日本酒を買ってきた。

初台友の会副会長の篠原さんからお借りした『生きている奇跡…一ノ瀬まゆみ著』を読んだ。大変な苦勞をして息子さんが高次脳機能障碍から復帰する話だ。読みながら身につまされて涙がこぼれた。皆苦勞をしているのだ。

12月18日

親友の大隅君来宅。哲也も楽しそうに話していた。思ったより哲也が回復しているので次回はもっと大勢で来ると。

12月24日

哲也はメールで床屋の予約をしている。短い文だけど三十分かかったと嘆いている。段々早くなるよと慰める。

このところネット販売で格好のよい服やシャツを購入している。段々洒落気が戻ってきたらしい。着替えては家族に見せに来る。

12月28日

昼前に高木先生の針治療、午後には初台の餅搗き大会の二か所のイベントのはしごに同行した。

久しぶりに訪ねた高木先生のところでは、哲也は右腕をかなり自由に動かしている。仰臥してベッドから下げた腕を持ち上げ手首を頭の上まで動かす。しばらくの間腕をまっすぐに立てている。手首の周囲の筋肉がついてきて手首を回せるようになったのが大きいと。

先生は、来年はもっと良くなると保証してくれた。傍で見ていて嬉しかった。本人は前からできているような顔をしている。

初台では百二十名ぐらいの参加者と病院スタッフが餅をついたり食べたりしている。哲也も並んで餅を搗かせてもらった。これで三回目（三年）の餅搗きだ。段々上手く搗けるようになっていく。

夕食時に右手に箸を持たせて食べようとするが、まだ無理。でもトライする気持ちは尊重したい。

12月29日

半分水の入ったコーラ瓶大のペットボトルを哲也は右手で掴みボトルをテーブルの上に持ち上げることができた。

まだ自分の思い通りではないが、なんとか物を移動させることが出来た。はじめてボトルの口を自分の口元に持ち上げて水を飲むしぐさをした。

「日本酒でやりたい」と本人は言っていて笑った。

12月31日

哲也の回復が目に見えてきて、楽しみが増えた。発症以来すでに二年半経過している。あと半年で社会復帰は無理か？ 無理だなあ。

平成24年1月1日

親戚が大勢集まって新年パーティ。哲也も長時間付き合う。大分疲れたようだが楽しんでいた。

1月2日

新宿で母親の実家（木下）の親戚との会食があった。哲也は体調優れず欠席した。前夜の疲れと飲み過ぎか？

1月17日

私は国立国際医療センターで狭心症と診断され、心臓冠動脈にステント挿入の手術をすることになり、家を出る前に哲也の部屋に挨拶にいった。哲也は丁寧に頭を下げたのみ。なんといいのか判らなかつたのだろう。「お父さんは君が倒れてからの心労のため心臓が悪くなった」と言っていてやろうかとも思った。こんなこと身障者の息子に言っても仕方ないよなあ。

1月20日

父親退院。哲也は「おめでとう」と一言だけ。それよりも、これから初台にゆくが、担当の先生が替わるので一緒に行つて欲しいとのことで、同行する。

小雪のちらつく寒い日だ。タクシーの中で久しぶりに話をする。

新しい担当医師は藤島先生。昨年野球観戦をしたと伝えたら、先生ははじめ巨人の大ファンだったが今ではアンチ巨人だと話し出した。巨人の一連の金に明かした選手補強について嫌気が差したと。阪神の選手の去就にも詳しく哲也

は嬉しそうに応対していた。

哲也の目標は四月一日までに運転免許を更新することだと伝えると、所沢の運転免許場に身体障害者向けのテスト機があるからその資料を取り寄せたらと教えてくれた。

「頭に穴をあけられてもなんとか前向きに努力している哲也君は立派だ。ヤンキースに行った松井も怪我のあと努力してカンバックした時、観衆は立ち上がって歓迎しただろう？ 皆感動したからだ。君も努力して周りを感動させるよな」と言ってくれた。聞いていた親父がまたまた涙ぐんだ。

面接が終わって時間があつたので、以前入院時にお世話になった古巣の五階に行って見た。もう知り合いの介護士は一人も居なかった。

帰宅して哲也がユーキャンのチラシを持ってきた。いろいろな資格取得コースの中で気象予報士なんかいいと思うと自分から言ってきた。早速無料のパンフの請求ハガキを書いていた。彼の年齢はもう四十七歳である。可哀相だが前向きな姿勢だけが取り得だ。

1月21日

哲也はジャンパーのチャックを一人で嵌められたと大喜び。不自由な右手でチャックの一端を押さえるのに難儀していたが、なんとかできるようになってきた。少しずつ、本当に少しずつであるが、右手が使えるようになってきた。勿論本人の努力の結果であるが。

1月24日

東京に大雪が降った。道路は氷結して普通の人も歩くのに苦労していた。

哲也の出がけに転ばぬように十分注意させた。途中危ない目にもあったが転ばずに往復できたそうだ

1月29日

日曜日ということもあって一家で夕食に日本酒を飲んだ。哲也は残りの酒を二階に持って行って飲んだらしい。就寝後、二階でドーンと音がしたので哲也の部屋に行ってみると、果たして机の横に倒れている。酔っ払ってバランスがとれず、右側を下にして倒れ、左手で掴むものがないので動きが取れないで居る。

助け起こして、骨折がないのを確かめる。口も利けなくらい酔っている。

トイレに行っても立っていられないくらいグラグラしているので後ろから腰を抑える。哲也は「大丈夫」といいながらも歩けない。やっとベッドまで行き

そこで倒れ込んでいる。どうも飲み始めると歯止めが利かない。下手に倒れて頭でも打ったらまた二の舞になる。心配でなかなか寝付けなかった。

1月30日

夕食時哲也は「昨日はごめんなさい」と謝りに来た。「酒をやめてくれよ。止めないと君は死んじゃうよ」と強い口調で言ってやったら、「僕、酒やめたら死んじゃう」と返答された。困ったものだ。

1月31日

初台のリハビリで成績が悪かったらしく、帰宅後機嫌が悪い。やや風邪気味の様子だ。

「少しくらいできなくてもマアイヤイヤと思って気持ち切り替えるよう」アドバイスした。その後哲也は泣きべそで二階から降りてきた。

「マアイヤ」という字が書けないのだそうだ。全てに落ち込んでいる。

「こんなときは部屋に帰って寝なさい」といわれて俯きながら立ち上がった瞬間バランスを崩し、また転倒した。食器棚のガラスがメチャクチャに壊れた。

本人に怪我はなかったが、なんとも情けない一日だった。

2月15日

今日は体調が良いらしく食事の際に弟の晋也と長々と話をしていた。「良く喋れるようになったな」と声をかけたら「まだまだ」と嬉しい謙遜の言葉が返ってきた。言葉がよく出るようになって他人の会話の途中からでも発言するようになってきた。

発音はまだ明確ではないが。高木先生から日記をつけるように言われて割合に綺麗な字で日記を書いて母親にみせたそうだ。

2月19日（泥酔）

祖母路子の十三回忌なのでお昼に京王プラザホテルに親戚が集まり会食をした。哲也はビール一杯飲み、料理を残らず平らげた。やや疲れていたのか、夕食時は日本酒コップ二杯を飲み自分の部屋に戻った。

事件はそれから起こった。

十一時頃に哲也は一階に降り、チョコレートを要求。母親からチョコレートを貰い二階へ戻った。この時すでに哲也は、酔っていたのかどうかは判らない。十一時半に私は床に入った。十二時頃哲也は再度一階に降り、母親の淹れたコーヒーを飲んだ。

部屋への帰り際に哲也突如ドアの手前で倒れる。すでにかなり酔っている。

酒臭い。

母親が二階まで同行し、ベッドに腰かけている哲也に、しつこく何度も「寝なさい」と命令。その度に哲也「いいよ」を繰り返す。段々声が大きくなり、突然哲也大声で泣き喚く。私は起き上がり二階へ行きなだめたが哲也は聞かない。両親は哲也の部屋のドアを閉めて一階へもどり就寝。

翌十九日午前二時頃 哲也は一階に降り玄関で靴を履き外出の気配。どこへ行くかと聞いても要領を得ない。玄関のドアを開けようとする。押し戻して椅子に座らせる。泥酔状態。大声で泣き喚く。頭を掻き毟る。酒は飲んでないというが酒臭い。

Tシャツだけなので風邪をひくからと母親が毛布を肩からかける。哲也はそのまま泣いている。十分ほどでようやく落ち着いてから二階に母親と上がる。ベッドに入った様子。

三時二十分頃哲也はふたたび起き出して階段へ。突如降り口から踊り場までまっさかさまに落ちる。あわてて私が助け起こし踊り場に座らせる。何を言っているのか判らない。「二階に戻れ」と言ったが「いいよ」を繰り返したまた大声で泣く。

泥酔している。

一人では立てないし、階段ものぼれない。両親が支えて一段ずつ押し上げるが、本人の足が上がらない。やっと踊り場から階段を三段上がり、ようやく二階の床に横たえる。二人で手足を持ち、引きずって部屋に入れる。

四時頃私は明日があるので部屋に戻る。母親は哲也をベッドに押し上げるが、足ばかりか上半身も不安定で、苦勞してやっとベッドに押し上げて、一階の部屋に戻る。哲也はベッドのなかで更に大声で泣くが最後には寝たらしい。

四時過ぎ、母親就寝。この夜は気になって一家で寝不足だった。

対策案を考えたが、これまでの慣行の土曜、日曜の飲酒は当分禁止するとか、初台と赤羽の各先生に報告し、指導を仰ぐ程度しか名案はない。

2月20日

哲也は昨夜のことは都合のよいことしか覚えていない。いろいろと理屈をいうが話にならない。

2月21日

初台で藤崎先生が酒の害について丁寧な説明してくれた。結論的にはビールなら二百CCが一回の飲酒量の限度だと。哲也は了解した模様。

2月26日

初台友の会が参宮橋であった。四十名ほど参加。順番に体験談など話す。哲也は自動車免許の更新にチャレンジしたいと述べた。

2月28日

西所沢、次いで府中の試験場に電話。前者は予約が多く三、四ヶ月待ちだ。府中にはいつでも受付ける。哲也は右手が治ってきたので週の後半に府中に行くことにする。

3月5日～3月17日

父親の私本人が医療センターに入院。腰痛の治療薬にロキソニンを律儀に服用した結果、胃潰瘍になったとのこと。食欲不振も手伝って貧血症になっていた。哲也は二回お見舞いに来てくれた。

3月18日

初台友の会で、哲也の運転免許証の更新について皆さんの経験談を聞いた。

3月22日～27日

哲也は前から知り合いの新田先生の事務所（八重洲口）に一人で行って来た。そこから哲也は穴八幡神社まで往復の散歩をしたらしい。

4月10日

私はセントラルの佐々木会長と会食。会長は哲也に仕事をさせたいといっておられた。アイラボという関連会社で手書きの診断書をPCで印刷するシステムを作れるかという質問だった。帰宅後哲也に相談したが哲也もいまひとつ詳細がわからずなんとも返事のしようがない。ただ、なんとか哲也に仕事をやらせたいという佐々木会長のありがたい気持ち伝わった。

4月12日

かねて申しこんでいた新宿区の障害者のためのPC講習が障害者センターで始まった。クラスは十名で内容はマイクロソフト7についての使用法の講習のようだ。哲也は講義の内容は判っているので、今回はむしろ他の障害者との連携や会話などを主目的に応募したらしい。

4月16日

親子で小金井の自動車教習場にゆき、免許の更新手続きをおこなった。哲也は身体障害者用の機械に乗り、右足でアクセル、ブレーキを踏み込むが操作が緩慢で左足アクセル車のみOKがでた。原付自転車もダメで哲也は

不満そうだった。

4月19日

初台友の会の篠原副会長から哲也に、メールで会誌「きらら」の編集を手伝わないかとお誘いがあった。哲也は「やってみたいが自信がない。教えてくれれば」と返事し、次の日曜日（二十二日）の友の会の開催前の打ち合わせに参加することになった。皆さん、哲也に仕事を与えようと考えていただいて本当にあり難い。

今日は新宿区のPC講習なので、会場まで哲也を送っていった。歩いて十五分程度の距離だ。道すがら「君に何かをやってもらおうという人が増えてきた。「今にこのPC講習の先生を頼むといってくるぞ」といったら「イヤ」といいながら嬉しそうだった。

4月22日

初台友の会の自己紹介兼挨拶で、哲也は運転免許証の更新ができたことを報告し、みんなから拍手してもらった。

4月26日

明け方にかなり長い地震があった。哲也は目を覚ましそれまで見ていた夢を覚えていた。「右手が治って動くようになったので、早速免許の講習所に行かなければと思った」と話していた。早く治りたいといういじらしい気持ちがよくかる。「君の脳も治ろうと思っているんだよ、頑張れ」と励ました。

4月28日

水槽の金魚を庭の池に放ち、新たに大量のミナミヌマエビを購入し水槽に放つ。メダカもいつの間にか増えている。

5月18日

哲也は順調に障害者センターのPC講習に通っている。講習期間は三か月で早く社会復帰をしたくて嫌がらずに通っている。

初台友の会副会長の篠原さんから五月二十日に駒沢にある身障者のお鮎屋さんに行かないかとお誘いがあった。メールで「いきます。」と返事している。いろいろと気を遣っていただき機会あるたびに声をかけていただいて有難いことだ。

5月20日

哲也は誘われた鮎屋さんに行って来た。鮎屋さんも身障者で左手が利かな



いので食事は握り寿司ではなく、チラシズシだったとのこと。帰りがけに渋谷駅で反対方向行き電車で乗り迷ったらしいが多くは言わない。

5月27日

初台友の会参加。私は前回と同じに往復だけ一緒に、会そのものには参加せず別室でTVを見て待っていた。会の終了時にカラオケをやっていた。

「六甲下ろし」はほぼ満点。「雪国」は八十点の出来だった。八月で発症三年目を迎えるので、それまでに実質的に杖無しで歩行できるように訓練を励むようアドバイスした。

行きつけの沢田医院で血圧が下がったのでクスリを軽いものに換えるのと。毎日の果物ジュースが利いたのかも。

6月2, 3日

月曜会恒例の奥多摩の御岳山の宿坊山楽荘での合宿セミナーがあった。総勢二十名。セミナーの途中で自己の困った事態について三人一組がグループになりひとり五分くらい話し合う時間があった。

哲也は急に脳梗塞を起こして半身不随になった状況を話して居た。他の二人は同じ会員なのでたどたどしい話を我慢して聴いてくれたようだったが、哲也はそれにめげずに自分の話をキチンとやってのけた。

合宿の終了時にみんなから「ずいぶん回復した」と褒められていた。宿坊の庭でモリアオガエルの産卵を見た。樹上で泡の中に数匹が団子になっていた。帰途、会員の中島さんが車で国分寺まで送ってくれた。

6月10日

日曜日なので近所を一時間ほど散歩した。帰途スーパーで日本酒を買って阪神が勝ったら飲むことにした。

6月14日

哲也は東京都の障害者センターで四月十二日からPCの講習を受けている。

これまでのワードの授業が終わりに近くエクセルの行程に入る由、これにも応募してきたという。面白いかどうかわからないがやがらずに毎週通っている。

結局一週間のなかで日曜日と月曜日しか空いていない。日曜日にも月に一回は初台友の会がある。

6月15日

初台の森嶋先生との面談。「哲也君は、病院では非常に前向きにリハビリにとり組んでいる。この事実をご家庭ではわかっておられるかどうか？」と哲也

の姿勢を高く評価してもらったので本人は満足している。

先週のNHKTVの「ためしてガッテン」でボツルニス菌の抽出液「ボツクス」の紹介があり拘縮した筋肉の弛緩に効果があるという。先生に哲也に施用して欲しい旨要望したが、ボツクスを使用すると筋肉が異様に弛緩し、下肢に適用すると却って危険であるとのこと。それでは上肢に使って欲しいと頼んだところ、哲也の上肢は完璧に管理されており、筋肉も柔らかくボツクスを使用する必要は認められないとのこと

哲也の目標は走れるようになることだ。英語を勉強してみようかな？とも言う。前向きの意欲が頼もしい。

6月15日

哲也は、母親と一緒に都庁にゆき、書類を整え、パスポートの申請を終えた。

6月16日

コスモスの高木先生に、先生の針灸治療のお陰で上肢は完璧に管理されていると初台で褒められたと報告した。先生はご満悦。最近哲也の脚の筋肉がしっかりとつくようになり力強く歩けるようになった。秋から暮にかけてもっとよくなる見通しという。哲也は家からの往復に杖を使わず、雨がふっても傘を左手に持ち、杖なしでヒョコヒョコ歩いて帰ってきた。長足の進歩だ。

夏はどこかに旅行しようかと訪ねたらハワイにゆきたいという。なんとか計画せねば。

6月18日

哲也は一人で新宿へ行き英語の教則本を買ってきた。ABCの発音から勉強するらしい。

6月21日

東京都の傷害者センターでのPC教室はワードの授業が終わった。哲也は授業終了後初台病院に行き初台友の会の篠原副会長と、「きらら」の原稿見直しの打ち合わせをした。帰宅後、私が打ち合わせ内容を聞いても要領を得ない。篠原さんも哲也の扱いに困っているのかもしれない。

哲也のパスポートは来週の月曜日には出来上がる由、家族でハワイに行っても良いとの意見も出てきた。

6月27日

パスポートを受理し、HISでハワイの旅行の資料を貰った。七月半ば辺りの出発が一番安いので、哲也にそう告げると「秋にゆきたい」という。

このところ急に右腕の調子が上がり、指がまだ動かないが肩をグルグル廻したり、スムーズではないが、拘縮していた腕を伸ばしたりできるようになってきた。三年前の八月七日に発症したのでその前に腕をなんとかして治し、それからハワイに行きたいという。ではハワイは秋にゆくことにして七月は台湾ではどうかと誘ったらまんざらでもない様子。

6月28日

哲也は右手が少しよくなってきたのか右手にビール缶六本を入れた紙袋を吊り下げて階段をのぼり二階まで持ち上げた。筋力が付いてきた様子である。

6月29日

哲也は初台で早速台湾に行くことを先生に報告したらしい。

HISで適当なツアーを選ぶこととする。七月十六日からの四日間コースに決めよう。

7月12日

哲也は初台リハビリ友の会の雑誌「きらら」の編集を手伝っている。自室ではじめて彼の作業内容を見ることができた。

表紙や目次のデザイン、各投稿者の文章のチェック、ページ空欄へのイラストの挿入など立派にこなしていた。ある日は翌朝の6時まで作業をしていた。「流石だな」と褒めたら嬉しそうな笑顔。大分自信がもてたらしい。仕事をまわしてくれた篠原副会長に感謝だ。

7月16日～19日（台湾旅行）

懸案の台湾旅行に二人で出かけた。十六日は早起きして新宿から成田特急だが、哲也は始めて乗るのでやや興奮気味。成田でのチャイナエアールへのチェックインもEーチケットで簡単であった。HISに予め身障者なので出入りの便利な前の方の座席を頼んで置いたので、窓側で快適だ。

哲也は機内の朝食で白ワインを二杯も飲んでた。台北では二階建てバスが待機していたが、一番前の席を用意して貰った。車内の同行者もみな親切に哲也のペースに同調してくれた。

九份ではゆるい坂道の商店街をユックリ昇り茶房で休憩した。故宫博物館は恐ろしいほどの混雑だがお目当ての「白菜とキリギリス」「象牙の鞠」をみることができた。衛兵の交代も見た。101の高層ビルは生憎の雨で天辺まではゆかず、アイスクリームを食べて時間をつぶした。夕食後は全身マッサージを

楽しんだ。

7月17日

台湾新幹線で台中までゆき、そこからバスで日月潭。壮大な廟がありその階段を哲也は苦心して登った。高雄では蓮池潭で大型マンゴーを三百円弱で買いホテルに帰って二人で堪能した。

7月22日

帰朝後、初台リハビリ友の会が幡ヶ谷のせせらぎセンターであった。哲也は台湾にいったことを披露し皆さんから拍手をもらった。

雑誌「きらら」の編集を手伝ったことを述べたが話した内容を皆さんに理解してもらえなかった。

7月27日

台湾行きをいろいろな人に自慢しているらしく、ヘルパーさんから「台湾は暑かったですか？」と聴かれた。

夜になって「宿題ができない」と哲也が泣いた。旅行の疲れが出てきたのかも知れない。

夏の「あの日（八月七日）」が近づいてきた。夏は脳梗塞が多いという。注意せねば…。

8月10日

初台での先生との面接。台湾へ行ったことを報告。哲也は順調に回復しているとのこと。

8月16日

上野の森美術館にツタンカーメン展を見に行く。凄い込み方だが身障者手帳の威力で待たずに入場できた。が、内部もギッシリの人で展示物はよく見ることが出来ない。内容も貧弱で二千七百円の入場券を払い長時間待つ価値はない。「つまらなかつた」のが哲也の感想。リハビリとしては人ごみの中で一時間半立ち通しだったので効果あり？ 帰路の地下鉄で大江戸博物館の展示の広告を見て食指を動かす。いろいろ興味が湧いてきたようだ。

8月19日

一日部屋にこもってネットで買った文庫本『その後の三国志』上下巻を読破。

8月23日

母親と大江戸博物館の二条城の襖絵の特別展示と常設展示を見に行く。ツタンカーメンより良かったそうだ。疲れたらしく夜は早寝をした。

8月26日

初台友の会に先立ち「きらら」編集委員会があった。前回の発行で哲也の功績が多く、みんなにお礼をいわれ哲也はまんざらではない。年末の次回の発行に関しても中心的な役割をおおせつかつていた。機嫌よく帰宅した。

9月1日

哲也が倒れてからまる三年が経過したので。お世話になった方々に近況報告とお礼の手紙を出した。いろいろと反響があった。

皆様、残暑お見舞い申し上げます。

中村晃也・清恵

平成二十一年八月に長男の哲也が脳内出血で倒れ、はや三年が経過しました。その年の一月に愛犬が死んだので、これでやっと夫婦で外国旅行ができるねとパスポートを申請し、受領したその晩に悲報が飛び込んできました。

生命こそは取り留めたものの、右半身不随で口が聞けない長男を見て、将来介護をして貰うつもりだったのが、逆に我々が死ぬまで長男の介護をしなければならぬかと、本人の将来と我々の老後を考えると暗澹たる気持ちになったのも事実です。といって現実を直視し翌日から全てに対処しなければならず、辛い毎日が続きました。

そんなおりに藁でも縋りたい気持ちで、同様の経験をなさった方々にアドバイスを頂きたくて、いろいろな方をお訪ねしました。

「こんなときに親がメソメソしてどうするんだ！」というきつい言葉も頂きました。いずれも「息子さんの病状は三〜五年もすれば百分とは言わないが必ず回復する。決して諦めないで気長に養生をせよ」という内容のお話でした。

その時は、そんなにも長い時間がかかるのかと半信半疑でしたが、毎日のリハビリや諸手続きに忙殺されている間にいつの間にか三年が経過しました。

今では、息子は右足に装具をつけていますが、ほとんど杖なしでも歩行できるようにになりました。歩行速度も常人と変わりません。一人でバスや地下鉄を乗りついで都内のどこでも行けるようになりました。週に四回リハビリや鍼灸院へでかけ、帰りに回り道をして買い物をしてくるまでになりました。

知らない土地にゆくと、何らかの刺激を受け本人も快適な気分になるらしく昨夏は北海道、今夏は台湾へ旅行にゆきました。帰国後、上野のツタンカーメン展にも両国の大江戸博物館にも足を延ばしました。

右手は肘の上げ下げまでできるようになりましたが、指が動くまでにはゆきません。発音は不完全ですが、ユックリなら喋るようになりました。ただ失語症の典型で、咄嗟に思った単語が出ずイライラすることがあるようです。

今年になって、初台のリハビリ病院の患者で構成されている「友の会」の機関誌「きらら」の編集のお手伝いを担当し、本職のPCを駆使して、文章の編集やイラストの挿入などにトライして、好評をいただき、次回から編集実務の主体になれるよう頑張っております。

もう少し喋るのがスムーズになれば待望の社会復帰が可能になるのではと淡い希望が持てるようになりました。我々夫婦もやつと精神的な落ち着きを取り戻し、まともな生活ができるようになりました。

改めてあの頃を振り返ると皆様が本当に親身に心配していただき、沢山のアドバイスを頂きました。いろいろな方のお世話になり、励ましていただきました。病院の先生方やスタッフ、看護師や介護士の方々、長男の会社の方々、発症時に救急車に乗って病院まで付き添って下さった方、皆様が恩人です。

ここに長男哲也の現状をご報告し改めて厚く御礼申し上げます。

平成二十四年八月

敬 具

(一〇七七七語)